

じやりみち

……仮設支援情報……



第35号 発行日 1997.2.20

阪神・淡路大震災

「仮設」支援NGO連絡会

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5

TEL:078-578-6921 / FAX:078-578-6923

E-mail:ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp

口座番号:01180-6-68556 (郵便振替)

寒くなったり、温くなったりの近頃です。風邪に気をつけてください。

さて次回全体会のお知らせです。事務局の一階を片づけたので、今回は「仮設」NGOのプレハブで行ないます。(冷暖房完備!) 前回のざっくばらんの内容を受けて今後の「仮設」NGOについての話し合いをします。

2月26日(水) 18:30~ 「仮設」NGOプレハブにて

全体会の報告

前回の全体会は、2月5日に行なわれた「ざっくばらん」の内容を受けて話し合われました。いつもの全員発言を含め、簡単に報告します。

<情報交換>

- ・地域型仮設住宅では住民の高齢者から地域の小学校の1年生が「遊びの伝承」として風やお手玉の作り方を教えてもらっている。
- ・A仮設住宅では地域ぐるみのリハビリとしてボランティアグループがいろいろな工夫をしている。
- ・S仮設住宅では年間100万円未満で生活している人たちが3分の1もいる。生活保護受給対象になるはずであるが、本人申請主義と生活保護制度がもたらす暗いイメージがカベになり、制度利用ができないケースが多いとのこと。また、担当者は対象者の所にどんどん出かけるべき。待っていて来ない。
- ・最近仮設入居者の栄養状態が非常に悪いとのこと。
- ・「自治会が継続されない」。毎回の全体会で必ずと言っていいほど報告される。中にはふれあいセンターの閉鎖寸前まで追い込まれている所もある。会長を始め、役員さんが転居されるためにあとを継いで引き受ける人がいないのが原因。

<「ざっくばらん」より提案を受けて>

今後の「仮設」NGOは何をするべきか

- ・様々な課題があるが、優先順位を決めて取りかかる
- ・国、県、市へそして企業、NGO、市民へと「提言・提案活動」を進めるためには具体的にどうするのか?

共同プロジェクトを通しての活動から各現場での課題を「ざっくばらん」に提起し、そして議論、情報交換をする。そして一定整理をしてまとめ、「提言・提案」につなげる。例えば、生活保護受給対象者がどれくらいいるのかなどの調査をし、それに基づいて「提言・提案」につなげる。(提言・提案の基礎になるのは調査とデータであるという声も!!)とありあえず、「ざっくばらん」(第1、第3水曜日)で、様々な課題を含めての今後のNGOの方向性と、「提言・提案」についてもう少しつつこんで話し合いましょうということになる。

ざっくばらん報告

2月19日(水)に開かれた「ざっくばらん」では2グループに分かれました。「提言・提案」というテーマと、「今後の仮設NGOをどうしていこう?」というもので、私が出た後者の方は狭い中で話しやすかったのと、飲み物もあったことからか、なごやかに進みました。資金的にも苦しくなっていく中で、何が必要なのか?どうカバーしあえるのか?という話から、来年度の事業方針はみんな具体的に考えていこうよ!ということになりました(当たり前のことかも知れないけど、ここまでみんなが一緒にやろうという気持ちになるまでながあい道のりだったんです)。すごいなあ、みんなでやっていくってこういうことなのかな?!と感じた今日この頃でした。「提言・提案」の方は私は出ていないので次回の全体会にこつ御期待!

事務局 ひかる

< 仮設は今... >

先日、神戸元気村と24時間体制で緊急通報システム、ベルボックスをつないでいる独り暮らしの(70才)の引っ越しを手伝った。古い市営住宅が当たったからだ。仮設住宅での友人とワイワイと荷造り、掃除をしながら今後の新しい生活について話題になる。

震災前の友人、避難所での友人、仮設住宅での仲間…そしてまた新しい地での関係づくりに不安を隠せない。ひとり、またひとりと仮設住宅から出ていく。見送られる方、見送る方ともに複雑な心境である。「また寂しくなったら仮設に戻つといでー」と笑って言っていたその言葉があちこちで現実になっている。市営住宅に荷物を運びながらふと気づいた。「電話はいつ入るのですか?」私の問いに「福祉の電話を使つと一から役所に移転の申請しとつて、時間がかかってますねん」…ということは安否の確認や緊急通報ベルが使えないということだー!?電話の設置まで一週間ほどはかかるという「しまった。空白に時間ができてしまう」そう思いながら、近所の人にぜひ気遣って下さいとお願いに歩いた。別れ際に「何とか生きてゆきますよ」とにっこり笑ったその女性の顔が忘れられない。充実した在宅支援の体制がより求められている。

こんな新しい生活での困難があちこちで今も、そしてこれからも起きゆく。日本中でも起きている。こんな日本に私たちは生きている。やることはたくさんある。

神戸元気村 吉村誠司



心の郵便局

ひさしぶりの報告



1995年の冬、仮設住宅を中心に支援するボランティア団体が集まって話し合いをした際に出た、「仮設住宅で年末年始をお独りて過ごされる人がかなりいる」という声。なんとかそういった人たちを励まし、そして独りではないんだということを伝えられないだろうか?ということから始まったのがこの「心の郵便局」である。

その年の11月頃に全国の人に呼びかけたのだが、ハガキで、手紙で、門松で、可愛い絵でと、本当に様々な形での励ましの言葉が寄せられた。今も少しづつではあるが全国から暖かなメッセージが届けられ、「仮設」NGOに関わって下さっている各ボランティア団体さんや、その都度お知り合いになったボランティアの方々に配って下さるようお願いしている。小さな子が書いてくれた、つたないけれども素朴なメッセージに涙を浮かべて喜ばれた方もあられた。また同じ被災地からの「お互いに頑張りましょーね」といったメッセージや、遠く北海道や九州などからの年輩の方の励ましなどもあり、事務処理をしている私たちにも心にくるものがいくつもある。

あれからあっという間に1年と少しが過ぎた。現在、2月20日の時点で、事務局に寄せられた心の郵便局はなんと約9,400通にもなる。これらは中学校の生徒さんたちが毎月まとめて送って下さったり、企業の中での活動で呼びかけて下さって一気に全国から寄せて下さったり、そして本当に一枚一枚まめに送って下さる個人の方々の積み重ねなの結果である。またさらに嬉しいことに、各々で文通をして下さっていたり、この被災地に足を運んで下さる人もいるのである。…私たちが1年前に思い描いた、全国の人たちが何らかの形でこの被災地を支えられないかな、という想いが少しずつ形になり始めているのかな!?

最近よく言われるのは、「もう震災は忘れられている」ということば。でも、先日行なわれた第2回市民とNGOの「防災」国際フォーラムで募集した励ましのメッセージにしても、800通以上のメッセージが本当に全国各地から寄せられている。集まらないだろうとタカをくくっていたことに深く反省したくらいである。

これからどんどん目に見えないプレッシャーが増えてきて、本人も気づかないうちに不安が溜まっていくのだろう。それをいかに一緒に歩いて支え合っていくのだろうか? これは私たち被災地に関わるボランティアに、そして全国の人たちの課題なのかなと思う。これらが根本的な問題の解決にはならないのはわかっている。しかしどうしても根本的な問題は時間がかりすぎてしまう。それらも平行していくことはもちろん前提として、こういったささやかなつながりがふえていくことで少しでも元気を取り戻してくれたらな、と思う今日この頃である。

事務局 ひかる

情報コーナー

交流会

97/3/9 (日) 14:00~17:30

1・17被災者いきいき市民交流会

大阪府下の被災者の皆様、現在震災復興の道筋が少しずつ見え始めてきていることを喜びと思います。しかしその一方で各所に様々な悩みが生じてきていることも事実です。復興住宅入居者資格の問題、県外仮設住宅入居者の取り残し、諸支援施策のアンバランスなどです。私たちは仮設住宅または仮住まいの一日も早い解消を目標としています。そこで行政の方々に参加していただいて直接復興に向けての方針、施策の説明をお聞かせ願ひ、また確認したいと思ひます。お互いに話し合い、建設的な場所を開きたいと考えています。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

場所：大阪YMCA会館9F903ホール
(大阪市西区土佐堀1-5-6)

主催：被災者連絡協議会
(高見・御幣島・淀川十八条・服部緑地・りんくうタウン・八尾志紀各仮設住宅自治会)

問い合わせ：0729-48-8519 いきいき市民交流会
八尾仮設住宅自治会内 担当米沢

コンサート

3/20 (祝) 14:00開演

第14回定期コンサート

場所：神戸文化ホール (大倉山)

主催：兵庫県中央吹奏楽団・オーシャンコンサート協会

入場券のタダ券があります。ご希望の方は事務局まで

お仕事

ひろーい北海道で農作業 (中・軽作業) を住み込みでお手伝いしてくだいせんか!? 少し被災地から離れて気分を一掃してみるのもいいのではないのでしょうか? 気に入ってくだされば永住ということも可能です。

内容

農作業：ラベンダーの管理・畑仕事・草刈り・芋掘り...

期間：5月~10月の半年間

宿泊：住宅確保・自炊

仕事をあくまでも中心に考えて下さい。もちろん、地元の方の案内付き又は一人で息抜き旅行・散歩付きです! 旅費、住宅などは相談に応じます。家族でというのもO.K.!

問い合わせ：十勝岳山3く 野菜村

〒071-05北海道支庁知郡上富良野町南町2丁目

(有) 小玉 青果 小玉康男

TEL: 0167-45-2168

移転

被災地障害者センターが移転しました。
〒653 神戸市長田区片山町2-17-9 TEL: 078-642-0142
最新の印刷機 (自動的に冊子もできるなど) をもっているの、各団体で発送物が多い場合は利用して下さい。

毛糸あります

一度使ったものが多いですが、なかなかきれいな色も!? ふれあいセンターでみんなで手芸をしてみたい? ご希望の方は「仮設」NGO事務局まで。

ストーブあげます

大型ガスストーブ10台ほどあります。ガスストーブなので事務所向き。

問い合わせ：06-359-7277

JOCIS (日本キリスト教海外医療協力会) 榛木まで

写真集

風が運んだ救援隊 北川幸三著 2,884円

被災地に駆けつけたボランティアたちの素朴な姿を写した写真集です。

長征社発行 〒650 神戸市中央区北長狭通5-8-6

ART

2/22 (土) ~ 4/20 (日)

砂漠の美術館一永遠なる敦煌 (有料)

場所：神戸市博物館 (中央区)

開館時間：10:00~17:00 休館日 (月)

招待券が少々あります。ご希望の方は事務局まで。

ボランティア募集

「仮設」NGOの事務作業のお手伝いしてくだいせんか? 「遠方でむりだわ」という方は、未使用テレカ・要らない封筒 (再利用できるもの) ・切手・ハガキ... 事務作業に関わる事務用品を送ってくだるボランティアとか... コンピューター処理でもO.K.!!!

内容:

1. 発送作業月2回 (第1・3金曜日) それに伴う事務作業はその2・3日前から行なっています。
2. 日常事務作業。単調作業ですが、一日でも大丈夫。
3. コンピューター処理。名簿の整理がしたいんす...

問い合わせ：事務局ひかるまで。

未使用

てれふおんかーど、く・だ・さ・い♡

2月20日現在でなんと466枚集まりました。感謝感謝!

被災者を支えた動物たち

前回の全体会の話の中で、「被災者を支えた動物たち」に関して少し発言が出ました。いろいろなところで聞く「心のケア」ですが、今回の震災では動物の存在についても考えさせられました。公営住宅でもモデルケースとして動物の飼えるところがあるとか!? もちろんトラブルが起こったケースもあるとは思いますが、面白い視点だなあと感じます。そういつた動物たちの存在についての寄稿がありましたのでご紹介します。

動物は常に人間の良き友であるが、突然の災害に見舞われた阪神大震災の被災者の人びとの中には、起居を共にする動物たちが最も苦しい時に家族を励ます存在であったことは、多くの人びとの語るところである。私はこれらの話を聞く度に動物たちに感謝している。その事例をいくつか紹介してみようと思う。

Aさんは、2匹のマルチーズを飼っている。震災後に奥さんが病気で入院し、震災に追い打ちをかけるつらさがあったが、マルチーズがいたからこそ耐えてこれたと述懐している。

Tさんは、2匹の中型雑種犬が家族の大切な仲間である。震災直後Tさんは避難所に入らず、避難所前の空き地に車を止めて寝泊まりしていた。それと言うのもこの2匹の犬がまず家族の中心であったために、周囲の人達に気遣いをさせないために、また犬たちができるだけストレスを受けないようにと考えて、狭い車の中で数カ月を送った。Tさんは食べ物を自分が食べずとも犬たちには食べさせたそう。しかしその反面、長い来るまでの避難所生活では自由に体を動かされなかったために、Tさんは今でも下半身の神経痛が残っている。

Mさんは、飼っていた犬の「たろう」にいのちを助けられたと言っている。部屋中が崩れ、身動きできなくなっていた松本さんは、真っ暗な中でどちらの方向に逃げたらいいかわからなかった。その時、家財の下から這いだした「たろう」が吠えながらMさんを外に誘導してくれた。外に出た途端家は崩れ落ちたそう。これに類した話を私はMさんだけでなく何人かの人から聞いた。

Hさんは震災で家財が全部だめになってしまったが、被災見舞金を家具や電気製品などを買うことには当てず、家族で話しあって10万円でマルチーズを買った。家族の皆が元気をなくしているときこそ、買いたいものを買おうというのが家族の一致した希望だった。今新しい「家族」は期待に答えてみんなを元気づけている。

Kさんは、一人暮らしで淋しがり屋なただだが、仮設住宅の付近にいる野良猫たちに毎日ごはんをつくって食べさせている。野良猫たちは誰かに飼われていたらしく、ひとなつこくてKさんの食事を毎日待っている。Kさんはキャットフードもどっさり買うし、また、病気で発熱した時でさえ鍋で炊いた食事を猫たちに運ぶことを休まなかったという。

飼っていた猫や犬が震災後、全部、又は広範囲に毛が脱げてしまったケースが多いが、多くが家族の手当てで回復している。「震災を被災した同志」という気持ちでいるのが動物と共に被災した家族の共通の思いであるようだ。

Yさんの愛犬の「ロン」は先月天寿を全うして息をひきとった。16年間も一緒に暮らした。「ロン」を飼いはじめた翌年、Yさんは脳梗塞で倒れ、懸命にリハビリをしたが、右半身不随の身になった。しかし、発作後15年間も不自由ななりに自活生活ができたのも「ロン」の存在あってのことである。震災後仮設住宅で一人暮らしに入っても、もちろん朝に夕にYさんは足をひきずりながらの「ロン」の散歩を欠かしたことはない。ゆっくり歩くYさんを「ロン」は決して、鎖を強く引っ張ったりしない。誰かと話して立ち止まる時も、Yさんが話し終えるまでじっと待っている。Yさんは「ロン」と死に別れてから猛烈に淋しい思いにとらわれているが、毎日夢で「ロン」に会っているそうだ。「ロン」がいなくても毎日の散歩を怠けたりもしない。Yさんのように、愛犬を世話し散歩することが、非常に良いリハビリになっていたり、老人のよい運動になっている例はとて多い。

Mさんは大きな手術のあとの後遺症で体調がずっと悪かった。ひよんなことから飼うことになった「ニャンタ」が一人暮らし生活をすっかり変えてしまった。昼と夜が逆さになった仮設の生活も「ニャンタ」を世話する責任で、メリハリのある生活に戻ってきたし、病気の発作を起こす回数もぐっと減ってきた。今、Mさんは一部屋だけのアパートに引っ越した。仮設住宅よりもっと狭くなったが、「ニャンタ」と一緒に穏やかに暮らしている。

……仮設支援情報……

〇さんは脳梗塞後、すっかり無欲な生活になってしまったようである。医者には通うが、薬はのまずに部屋に山積みされている。その部屋は私たちが掃除をするまで決して片づけることもない。少しでも活気ある生活にしていくには動物を飼うことが一番いいのではないかと私は思い、そのことを〇さんに話したら、彼もまた強く犬を飼いたいと思っていた。それでも話はかんたんにはいかない。〇さんは犬は「柴犬」でなければならないのだ。どんなに可愛い犬でも雑種ではだめだと言う。彼が調べたところによれば、9万円するのだそうだ。その9万円が調達できるまでこの生活革命の妙案はどうやらお預けのようだ。

Sさんは奥さんがなくなってから孤独な生活を続けている。仮設住宅に入ってきた当初、環境が変わったことと、Sさんの淋しがり屋とで随分酒をあおり、そのために気のよいSさんも評判丸潰れであった。からだをこわしては酒をやめ、盆や正月にはまたやるせなくなって酒に浸る。福祉事務所のケースワーカーも私たちもSさんをいつも励ましている。Sさんはそれによく応えて、しばしば壁に

「禁酒」と書いた紙を貼っては努力をしている。しかしそんなSさんのなくてはならぬ一番の相棒は、メジロの「さぶ」である。「さぶ」はSさんの前の相棒の「ごろ」がどっかへ飛んでいってしまったあとにSさんのところへ来た。Sさんはこの年の暮れ、愛する一人の甥が病気でまともに歩けなくなったのを目の当たりにしてからまた元気がなくなった。「甥の身代わりにもなってやれない、こんなおいぼれの役立たずが生きていて何になる」と死のうとしてガス栓を開いた。もちろん成功しなかったのであるが、気力も体力も衰えて万年床に身を横たえながら飽かずに見つめていたのは「さぶ」である。小鳥の餌をすりつぶしていつも食べさせていたがこのところのSさんの弱りで、与えているのはりんごやカステラ、白菜などである。けれども「さぶ」は一日中無心に食べ物をつついては眠り、また鳥籠の外や中を飛び跳ねている。時々Sさんは口をすぼめてヒューと音を出して「さぶ」と話しをする。……「ごろ」や「さぶ」がいたためにSさんの日々はどんなにか慰められているのである。

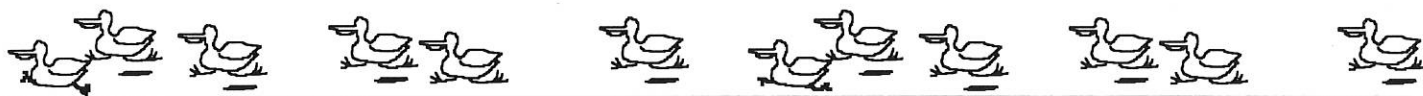
仮設保健ボランティア 大川記代子

お・し・ら・せ

ちょっと
いっかい休み

ふきちゃんのキャラバン日記

いつも全国キャラバンを担って走り回って下さっていふきちゃんもとっても忙しく、ちょっと今回はお休みです。「全国と被災地をつなぐ」ということをテーマに次回もお楽しみにして下さいね。



初めてこのじやりみちをお受け取りになった方へ

はじめまして。という方もおられるかと思いますが、私たち阪神・淡路大震災「仮設」支援NGO連絡会の発行している情報誌「じやりみち」は、何らかの形で私たちの代表の村井雅清がお会いした方、またいろいろなシンポジウムに参加して下さった方、私たちの連絡会に義援金や物資をお届け下さった方などに発送しています。この連絡会に参加して下さっているボランティア団体さんたちの情報交換の場、そして全国の方には今の被災地の現状を伝える場として、少しでもお役にたてたらができれば幸いです。いろいろな方のご意見やご感想を頂き、これからのこのじやりみちの質の向上に役立てていきたいと考えておりますので、お気軽にご意見を下さい。

また、これらの情報紙のバックナンバーを2冊の縮刷版にして販売しています。ご希望の方は事務局まで。

じやりみちをお読み下さっているみなさまへ

もし重複してじやりみちが届いておりましたらお手数ですがご連絡下さい。また、「この人にも送ってー」というのもじゃんじゃんぱりぱり受け付けております。また、住所などが変更された方、される方などもご連絡いただくと助かります。